

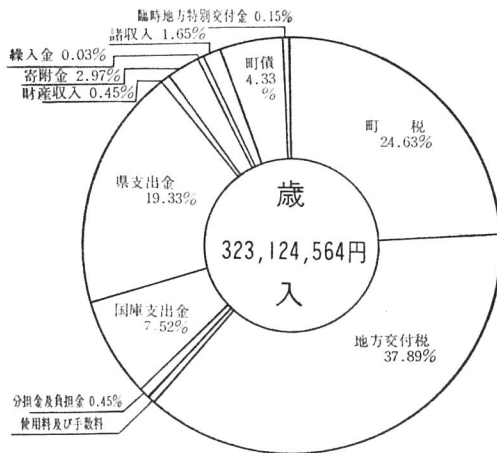
一般会計

歳入 323,124,564円
歳出 316,396,248円

昭和42年度 決算の あらまし

編集と発行

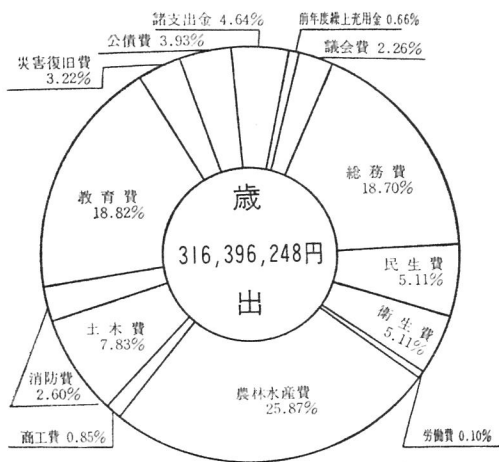
朝日町役場



しかし、問題がないわけではない。例えば地方交付税である。四二年度に、国から交付された地方交付税は一億二千二百四十六万三千円（歳入の三七・九％）であるが政府は、国の財政硬直化、地方

昭和42年度の決算も終り、9月定例議会において認定された。各会計の合計歳入、四億六千九百三十五万二千円、歳出、四億六千三百八十六万四千円、差引五百四十八万八千円、町全体の会計において黒字となったことは、誠に喜ばしいことである。

そのうち病院および水道の両会計が赤字となったが、一般会計六百七十二万八千円の黒字は三年ぶりであり、町財政確立のための方向づけとなるものとして、意義深いものがある。



でも、安い単価で町におしつけており、プール建設・国民年金・戸籍事務の各般にわたって財源負担を押しつけている現状である。

町決算においても病院、水道会計への補助一千九百九十一万円のほか一千五百六十九万円の補助負担金がある。町財政にしろる割合が

決算にみる

町の台所

財政の好転を理由に、交付率の引下げを目論んでいるからである。しかし、その前に正すべきものがある。それは、財政制度全体の正常化であり、超過負担の解消と補助金の合理化である。

学校建築補助単価一つとてみ

大きく今後充分検討して行くべきであろう。国や県においても負担金交付金・育成補助など、不急、不要なものの整理に努力すべきではないだろうか。

昨年八月の豪雨被害による復旧費を含め、総事業費は一億三千二百五十七万円（総額の四二％）となった。苦しい財政の中で意欲的に事業を進め、町県道改修・農業基盤の整備に特に力を入れた。それにしても今後の町発展の指針とも言える大蔵線の改修に着手されたことは誠に喜ばしいことであった。

また町税は七千九百六十万円、歳入全体の二五％になり、町の大きな財源であり、豊かな町づくりのためにも、納税にはなお一層のご協力をお願いしてやまない。

（管理課長）

繰越金

672万8,316円

昭和42年度一般会計決算の内訳

(歳入)

款	本年度 決算額	前年度 決算額	増 減	構成比
1. 町 税	千円 79,601	千円 68,666	千円 10,935	% 24.63
2. 地方交付税	122,463	99,306	23,157	37.89
3. 分担金及負担金	1,462	1,133	329	0.45
4. 使用料及手数料	1,825	1,576	249	
5. 国庫支出金	24,296	11,965	12,331	7.52
6. 県支出金	62,476	44,293	18,183	19.33
7. 財産収入	1,453	1,116	337	0.45
8. 寄附金	9,604	6,950	2,654	2.97
9. 繰入金	109	109	0	0.03
10. 繰越金	—	—	—	—
11. 諸収入	5,342	4,301	1,041	1.65
12. 町 債	14,000	21,900	△ 7,900	4.33
13. 臨時地方特例交付金	493	2,211	△ 1,718	0.15
合 計	323,124	263,529	59,595	

(歳出)

款	本年度 決算額	前年度 決算額	増 減	構成比
1. 議 会 費	千円 7,178	千円 6,276	千円 902	% 2.26
2. 総 務 費	59,194	50,508	8,686	18.70
3. 民 生 費	16,172	12,250	3,922	5.11
4. 衛 生 費	16,886	13,420	3,466	5.11
5. 労 働 費	330	249	81	0.10
6. 農林水産業費	81,867	59,156	22,711	25.87
7. 商 工 費	2,691	2,202	489	0.85
8. 土 木 費	24,802	22,527	2,275	7.83
9. 消 防 費	8,252	5,841	2,411	2.60
10. 教 育 費	59,558	57,623	1,935	18.82
11. 災害復旧費	10,206	435	9,771	3.22
12. 公 債 費	12,461	11,018	1,443	3.93
13. 諸 支 出 金	14,710	5,952	8,758	4.64
14. 予 備 費	—	—	—	—
15. 前年度繰上充用金	2,089	18,154	△ 16,065	0.66
合 計	316,396	265,618	50,778	

一般会計歳入の内訳

町 税

七千九百六十万余円

歳入総額の二四・六%にあたり前年に比べ一千九十三万四千余円の増となっている。住民一人当りにすると五千六百一円になるが、この中には住民個々が直接納めるもの四千三万余円と、法人分や間接納税分が三千九百五十六万余円あり、この間接納税分を除いた実質一人当りの納税は二千八百十七円となる。

また、納税成績は皆さんの協力により九八・五%と前年と同率

地方交付税

一億二千二百四十六万三千円

のよい成績であったが、今後もなお一層のご協力により100%完納を達成していただきたいものである

これは総額の三十七・九%に当り、前年に比べ二千三百三十五万七千円の増と大きな伸びを示している。この中には、普通交付税（全国共通の項目により算定）分が一億一千三百三十五万五千円と特別交付税（市町村の特殊事情によって算定）分が九百十五万八千円とに分れている。住民一人当りにする

国庫支出金

二千四百二十九万六千余円

総額の七・五%に当り、おもなものとしては山村振興法に基づく道路改良補助や災害復旧補助、小中学校の教材費補助、寄宿舎居住費補助等がある。

県支出金

六千二百四十七万五千余円

総額の十九・三%にあたり、主なものとしては鹿路林道開設補助西部児童館建築補助、農業構造改善補助、振興山村特開事業補助、高校朝日分校体育館補助などがあ

寄付金

九百六十万四千余円

総額の三%に当り、主なものとして、西部児童館建築費地区寄附生活改善センター建築費地区寄附町道改修費地区寄附、ポンプ購入費地区寄附、高校朝日分校体育館建築費寄附などがある。

町 債

一千四百万円

総額の四・三%に当り、項目は町民税減税補てん債、西部児童館建築費、生活改善センター建築費、農業構造改善事業（杉山農道）債、鹿路林道開設債、町道石須部線改修債、自動車ポンプ購入債、災害

その他

一千六十八万三千余円

総額の三・一%にあたり、この中には分担金および負担金、使用料および手数料、財産収入、諸収入、臨時地方財政交付金などが含まれている。

以上のような歳入の内訳けとなつてはいるが、この内町独自の財源としては町税など九千九百三十九万余円で、その他は地方交付税や国、県支出金などの国や県に依存している財源であり、町独自の財源割合は三十%ぐらにとどまっている。

復旧事業債などである。

一般会計歳出の内訳

人件費

八千三百九十六万九千余円

物件費

四千六百二十七万七千余円

歳出総額の二十六・五%にあたり、前年度に比べ一千二百二十万円の増となった。内訳を見ると職員給与が六千九百万円で最も多く、三役給料が約五百五十万円、議員報酬が約三百七十八万円、各種委員や調査員、消防団員等報酬手当が約五百三十九万円、その他となっている。住民一人当りにす

る五千九百九円となる。

総額の十四・六%にあたり、前年に比べ九百六十五万円の増となった。この中には役場や学校などを維持運営するための経費や各種行事や事業を行なうための経費がふくまれており、項目は賃金、旅費、交際費、需用費、役務費、備品購入費その他などがある。

住民一人当たり三千二百五十六円で、この物件費については毎年度積極的に節減に努力しているが、需用の増と物価の上昇により前年度より増額となった。

維持補修費
八百二十二万八千余円

総額の二・六%にあたり、ここには道路、庁舎、学校、車両その他町有財産を維持するための補修費などが計上されている。

扶助費・補助費等
二千九百九十五万六千余円

総額の九・五%にあたり、これには各種団体に対する負担金や各種事業、行事に対する振興育成の

補助交付金、その他小中学校の準要保護児童生徒に対する就学援助費などがあり、住民一人当りにすると二千八百八円となる。

普通建設事業費
一億二千二百三十六万四千余円

総額の三十八・七%となり、前年度に比べ、三千二百二十六万八千円の増と大きく伸びた。ここには町が事業主体となり、国や県から補助金を受けてする補助事業費、町だけの財源でする単独事業費、県が事業主体でする県工事の負担金その他で、住民一人当りにすると八千六百一十一円となり、年々意欲的に事業を行なっている。

災害復旧事業費

一千二十万六千余円

総額の三・二%にあたり、これは昨年八月の集中豪雨による農地および農業用施設の災害復旧事業費と鹿路林道および町道の道路欠損災害復旧事業費である。この財源内訳は国庫補助金が八百二十六万五千円、起債が百万円、残りの九十四万四千円が町費と受益者負担となっており、大部分が国よりの高率補助である。

公債費

一千二百四十六万一千余円

総額の三・九%にあたり、これには前年度まで借入れた起債の元金、利子の償還金と一時借入金の利子などが計上されている。住民一人当りにすると八百七十七円でこれも年々増加の一途をたどっている。

前年度繰上充用金

二百八十八万八千余円

総額の〇・七%で、これは四十一年度の決算において歳入歳出差引きで不足額が生じたので、四十二年の歳入より四十一年度へ繰上げて充用したものであり、住民一人当りにすると百四十七円となっている。

その他

八十四万七千余円

総額の〇・三%で、これは出資金、貸付金、繰出金などが計上されている。

なお、事業費の主なものを見る

昭和42年度一般会計決算

主な部門の 住民一人当りの額

人口13,591人 (43.3.末日現在)

歳入

納税通知書	
町税	5,601円
分担金負担金	107円
使用料手数料	134円
寄付金	706円
財産収入	106円
繰入金	8円



地方交付税	8,617円	国庫支出金	1,787円
県支出金	4,596円	町債	103円
諸収入	393円		

歳出



総務費 4,355円



土木費 1,824



教育費 4,382



労働費 24



衛生費 1,242



議会費 528



消防費 607



農林水産業費 6,023



商工費 197



民生費 1,190

と次の通りである。

- ◎庁舎敷地購入
二百九十五万一千円
- ◎庁用自動車更新及車庫建築
百八十八万八千円
- ◎西部児童館建築
四百七十八万八千円
- ◎北部保育所増築
百十万円

国保事業会計決算

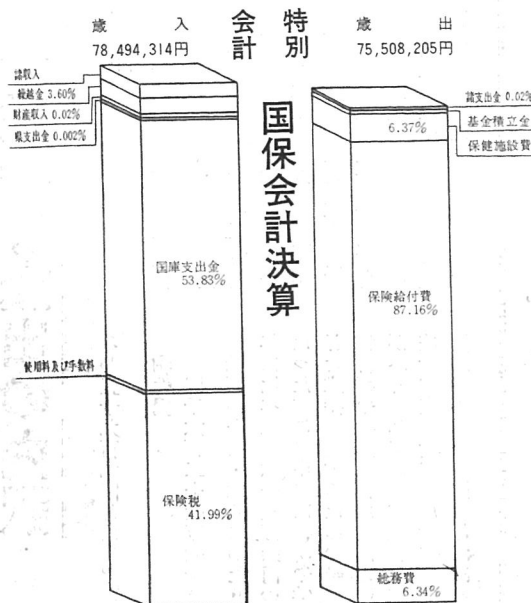
多すぎる保険給付

国民健康保険事業会計の歳入決算額は、七千八百四十九万四千余円、歳出は七千五百五十万八千余円で二百九十八万六千余円の繰越

しとなった。

傾向としては、二重加入者の除外や人口流出のために被保険者の減少が目立ち、反面に診療を受け

- ◎白倉生活改善センター建築
二百五十三万四千円
- ◎山村振興特開事業（農道及果樹集荷所）八百二十一万二千円
- ◎農業構造改善事業（杉山農道含む）四千七百七十二万八千円
- ◎牧野造成事業
百七十二万円



病院事業会計決算

収益的収支

病院事業収益	44,745,184円
医業収益	38,053,900円
医業外収益	6,691,284円

（支出）

病院事業費用	46,929,187円
医業費用	44,363,030円
医業外費用	2,566,157円
期間外収入	4,833,000円

資本的収支

（収入）	
資本的収入	480,000円

（支出）

資本的支出	5,502,696円
建設改良費	190,000円
企業債償還金	479,696円
再建債償還金	4,833,000円

病院会計は累積赤字解消のために再建計画をたて（一般会計より毎年繰出しをおこない七年で解消する）て再建につとめている。

本年度分については極力経費の節減に努めてきたが、患者の利用のびず、結果的には純損失二一八万四千円、当年度末欠損金五百四十七千円となった。

る人が多くなり医療給付が増大している。保険税は目的税であり、医者ににかかる人が多くなれば、それだけ保険税の負担が増大する結果になる。そのためには、悪くない内に医者にかけ、早期治療をして頂くとともに、同じ病気で何軒もの医者にかけるといった無駄なことはできるだけやらないでほしいと町では望んでいる。保険税を被保険者一人当りにみると二千九百八十三円で、昨年度より四百四十四円の増、県平均二千九百六十二円より二十一円の増となっている。一方、療養給付は一人当り八千三百八十五円で、昨年度より千二百三十四円増え、県平均六千八百八十三円より二千二百二円多くなっている。

水道事業会計決算

収益的収支

（収入）	
水道事業収益	12,808,303円
営業収益	12,755,767円
営業外収益	52,536円
（支出）	
水道事業費用	13,323,895円
営業費用	7,977,842円
営業外費用	5,346,053円

資本的収支

（収入）	
資本的収入	1,000,000円
企業債金	1,000,000円
（支出）	
資本的支出	2,586,021円
建設改良費	449,773円
企業債償還金	1,536,248円
水利補償費	600,000円

収益的収支のうち、営業収益のおもなものは給水収益（水道料金）および新規給水工事収益などである。支出の方の営業費用のおもなものは職員の給料および賃金・減価

償却費・受託工事費などである。営業外費用のおもなものは企業債利息・一時借入金利息などである。資本的収支の不足額百五十八万六千二百一十一円は当年度損益勘定留保資金で補てんした。なお一般会計からの繰出金は、資本的収支の出資金、百万円である。

水道の利用状況は徐々によくなつてきているが、未加入者が多く残っており、衛生の面からも、つとめて水道に加入していただきたいと町では望んでいる。

編集室より

◎昭和42年度の決算のあらましをまとめました特集号、大変おそくなりましたがお届けいたします。◎町の台所はどんな状態になっているか。私たちの納めた税金が、どのように使われているか、どんな町づくりの事業がおこなわれたのか、等、この資料をお読みになつてご理解を深めてください。